



「魔物本舗」の魔物DLCを購入する際は、必ずこのバーコードを読み取ってください。

## 河内の概観

北河内」は、古代以来の「交野・茨田・讚良」の三郡に相当し、現在は「枚方・交野・寝屋川・守口・門真・羽條畷・大東」の七つの市からなる。北方に淀川本流、東方に枚方丘陵・交野台地・生駒山系の山麓部が続き、西方には、淀川水系の土砂によって形成された沖積平野が広がり、南方は、「旧河内湖」をして「中河内」と接する。旧石器～縄文時代には東方部に遺跡が散在し、弥生時代には西方部にも集落が形成され、古墳時代に入ると「禁野車塚」「牧野車塚」など、地域首長の「前方後円墳」が築かれる。「日本書紀」には、仁徳天皇期に、日本初の国家的治水事業である「茨田堤」が築かれたと伝わる。また、繼体天皇の「樟葉宮跡伝承地」が府の史跡となっている。交野台地は、かつて「交野ヶ原」とよばれ「禁野(きんや)」の地名が残るように天皇家の遊獵地があり、その北部の摂関家領「楠葉牧」には、諸国からの献上馬の放牧地もあった。南北朝時代の「四條畷の戦」の古跡には、「伝楠木正行墓」などもあり、戦国時代の三好長慶の居城「飯盛城」などの城跡が多く残されている。また、北河内はキリスト教と縁が深く、長慶の家臣には洗礼を受けた者も多く、高山右近の高槻とともに、北河内にも多くのキリスト教徒がいたと伝わる。淀川下流域低地である平野部は、「茨田堤」以来、暴れ多めの淀川水系の氾濫に対応して治水と開発が繰り返し進められてきたが、江戸時代の中期、これまで北流していた大和川の付け替え工事が実行され、この地にあった「深野池(ふこのいけ)」は姿を消し、多くの新田が開発された。豊臣秀吉の命による、淀川河岸に残る「文禄堤」は、堤上が街道として利用され、江戸時代に入り「伏見・淀・枚方・守口」の四宿が設けられ、「東海道」の一部として「京街道」とも称された。また、京伏見と大坂八軒家を結んで「三十船」が往来し、水陸交通の要衝としての役割を担った。明治時代に入り、京阪電鉄や国鉄片町線(JR学研都市線)の開通により水運はすたれ、京街道も国道1号線と姿を変え、この地はまたたく間に変貌を遂げる。一方、明治時代の「禁野火薬庫」に始まり、昭和に入り「大阪砲兵工廠枚方製造所」や「香里製造所」などの軍需工場が設けられた。戦後、その産業的基盤もあって、大手家電メーカーがこの地に進出し、それと並行して宅地化が急速に進み、人口も増加し、日々発展を続けていく。

## 河内の概観

中河内」は、令制国の「河内国中部」に由来する名称で、現在は「東大阪・八尾・柏原」の三つの市からなる。東方に、生駒山麓地が南北に連なり、その西方は、旧大和川下流域低地とよばれる沖積平野が広がる。北方は、「旧河内湖」を介して「北河内」に、南方は「新大和川」を介して「南河内」に接する。旧石器～縄文時代には、生駒山系山麓部を居住地としていたが、弥生時代に入り沖積平野部にもそれが広がり、古墳時代以降、九州・瀬戸内地域・難波宮、そしてヤマトとを結ぶ交通路としての重要性が高まり、物部氏などの有力氏族や百济系渡来人も定住した。大化の革新の後、天智天皇期の「高安城」や聖武天皇の行幸の地「竹原井頓宮」、称徳天皇・道鏡ゆかりの「由義宮」の造営が行われ、聖武天皇の「廬舎那仏」造立発願の契機となった「智識寺」などの寺院がこの地に建立された。ヤマトと難波とを結ぶ「龍田道」の旧大和川に「河内大橋」が架けられた。平安時代に入り、平安京と高野山を結ぶ主要道路として「東高野街道」が整備され、この橋が利用される。時代は降り、南北朝～戦国時代にかけて、この地はしばしば戦乱に巻き込まれ、民衆は宗教に救いの道を求める。浄土真宗の布教とともに環濠をもつ「久宝寺寺内町」が生まれ、またキリシタンの伝道も行われ、八尾本町には「キリシタン墓碑」も残る。江戸時代に入り、幕府の方針から、真宗大谷派の「慈願寺」を核に「八尾寺内町」が生まれ、本願寺派の「顕証寺」を核とする「久宝寺寺内町」とともに「中河内」の中心となり、平野川の舟運の発達もあって繁栄する。また、「大和川の付け替え」が、庄屋「中甚兵衛」と堤奉行「万年長十郎」を中心に実施され、旧河床の新田開発が進み「河内本郷」の生産性が高まった。近代以降、東大阪の枚岡地域では、火車の利用から始まった伸線工業が発達し、八尾地域のプラスチック・繊維製造とともに有名となり、また柏原地域では、明治時代からぶどう栽培が行われ、ワイン醸造が盛んとなる。1970年代以降、「中河内」の各市では工場誘致・宅地化が急速に進み、土地区画整理事業などが実施された。現在、この地域の歴史・文化遺産の活用や、山麓部の自然の保全、平野部の旧大和



ヒ可内・中可内・歴史的建造物マツ・ブ



